

## 2020年港区長選挙・各立候補予定者政策比較表

\*本比較表は、連絡先を把握することができた立候補予定者へ質問票を送付し、2020年5月29日までに回答が得られたものを元に作成しております。 \*氏名の五十音順にて掲載

		立候補予定者				
		いいだ佳宏氏	大滝実氏	菊地正彦氏	たけい雅昭氏	
人柄	生年月日	1973年03月22日	1949年05月06日	1953年5月5日	1953年01月01日	
	出身地	北海道	埼玉県北葛飾郡庄和町(現春日部市)	東京都港区	東京都品川区	
	略歴	国会議員秘書として港区に、議員会館にて農林水産委、法務委、災害特別委、科学技術特別委等各種委員会委員、質問資料作成等に携わる/スマートモビリティ開発、シェアバイク事業の会社代表をしています。	1968年埼玉県立春日部工業高校機械科卒。1968年機械製造会社入社。1974年民青同盟港区地区委員長。1980年日本共産党港区地区委員会勤務。2007年から港区議会議員(3期)。芝浦在住。	生年月日 1953年5月5日生まれ / 本籍 麻布十番 / 三田在住 / 家族 妻・父・愛犬(ルイ) / 日本大学法学部・日本大学大学院法学研究科(政治学専攻) / 出版社勤務を経て港区六本木に会社を設立し独立 / 1992年日本新党(細川護熙代表)に入党 / 1993年 東京都議会議員当選(港区選出) / 1997年新進党・2001年自由党・2005年無所属にて惜敗 2013年生活の党にて惨敗 / 2000年・2004年には港区長選挙に2度挑戦 / 2020年現在 会社経営	・早稲田大学政治経済学部卒業 ・1977年、港区へ入居。2003年港区区民生活部長 ・2004年6月～港区長、現在4期目	
	ご自身の性格を簡潔にいうと・・・	ポジティブでとても楽観的	「誠実、実行力、トコトンがんばる」をスローガンに活動をしている	義理人情に厚い性格	楽天的	
	休日の過ごし方	バイクに乗ってウーバーイーツやコミュニティ立上げのお手伝い等	家庭菜園、映画・落語鑑賞。	スポーツジムへ行く事・ゴルフに行く事 他	散策が好きですが、今は家にいます。	
政策	港区の現状認識と目指すべき将来像		新型コロナ禍で大きな痛手を受けた港区だが、減税主体の政策により都心としての高い価値を維持していく。その価値とすべての方が将来不安なく、いつまでも住み続けることができる安心感を両立させていく。	国やゼネコンの言いなりに大型開発をすすめ、住民追い出しと一極集中を招いてきた。新型コロナの世界的感染によって政治や社会の根本からの見直しが必要となっている。いのち、くらし、営業、安全第一の港区にする。	(住民)人口がS30年代の30万人と同じ位に5年後に増えると思われませんが今後再開発では良質な調和のとれた生活環境を守り公共インフラの需給バランスを予測した街づくりを目指します。	各世代にわたり住む人が増えていること。まちを愛する多くの人、団体、企業が活躍し、地域の魅力をつくり上げていること。誰もが安全にいきいきと暮らし住み続けられるまち、誇りに思えるまちを実現します。
	最も力を入れた政策	政策名	特別区民税の減税と都税である固定資産税の減免要請	小中学校の入学支度金と給食費の無料化、中学生の修学旅行費援助	港区上空の羽田新飛行ルートの撤回・都区財政調整制度の見直し	安心して健康で心豊かに生活し活動できる日常を支える。
		期限	2021年予算で反映、均等割は四年でゼロ	来年度から。	2024年内までに	令和8年度 (次期港区基本計画の最終年度)
		数値目標	均等割ゼロ所得割0.6%減、固資産税五割減	小学生入学支度金2万円。中学生入学支度金3万円(一部)。	数値では計れない。	次期港区基本計画の成果目標で示します
		予算	初年度78億円前後からのスタート	65億円(総額)。	同上	各年度千数百億円規模を見込んでいます。
		財源	特別区民税収と過大な財政調整基金	基金の活用。	同上	特別区民税、国などの補助金、基金、財産収入
		手段	区議会の理解の下、各会派の先生たちの意見をよく聴いた上で、特別区民税の減税の条例案作成の手続きを進めていきたい。また固定資産税に関し、都に対して民間人口の減少を理由にとにかくお願いをしていく。	私が区長になれば来年度より実施する。	民意が反映されやすい区政の実現に向けて羽田新飛行ルート撤回における住民投票の実施へ	区政の主役は区民です。区民生活に関わる計画は、区民の皆さんと一緒につくり上げ、企業や団体、全国自治体とも連携し、各政策を実現します。
	新型コロナウイルスに対する対応	感染の再拡大を未然に防ぐことが最優先。感染した方や不安を持つ方へのケアをしっかりすることで区民全体に安心感を持ってもらう。国籍や年齢、様々な理由による困窮や差別を放置せず、区民の命と健康を最優先で守っていく。その下で政策判断をしていく。	PCR検査体制を抜本的に増やすとともに、医療機関への支援をおこなう。病院、介護、保育に従事する人については、濃厚接触となるので全員の検査をおこなう。症状におうじて、未発症者、軽症者はホテルにて治療するなど医療崩壊を防ぐ。	保健所の機能強化と区民や事業者への徹底した経済支援(現実的にはPCR検査を区が独自に対応出来るシステムを確立する事が急務です)	区内医療機関等との連携を強め、区民に対してはきめ細かい情報提供を行うことで感染を防止し、区民の命と健康を守る。第2波に備えて、得られた知見を生かし体制を強化する。冷えた経済活動の回復を支援し、区民生活の安定とまちの活性化をめざす。	
オリンピック・パラリンピックに対する取り組み	オリンピックが行われる場合は港区としても最大限協力する。ただ、区民の安全が最優先であり、新型コロナ感染が再拡大しないようしっかり進めているか国や都を注視していきたい。また港区としても国や都に頼り切るのではなく、独自の情報収集を強化していく。	台場での開催が決まっている「トライアスロン競技」が安全におこなわれるよう準備する。	新型コロナウイルスの終息を待ちつつ出来る範囲で再準備を進めて行く事	区民の夢と希望を乗せた東京2020オリンピック・パラリンピックの開催に向け、高まった気運を来年につなげ、区民の皆さんと共に喜べる心に残る大会となるよう力を尽くす。		
新しく転入してきた住民の港区政に対する関心や政治参加を増やすための方策	地域SNSなどでこの課題に尽力している方に感謝。ただ区としてはダイレクティブと双方向性を重視。役所との相談・申請等で自分がどのような状況にあるのか一目でわかるようなシステムを構築。行列を無くし、待機時間を短くすることに力を入れるべきと考える。	芝浦4丁目町会の「月1回」の清掃は60人前後、月2回年間通してのパトロールは毎回30人前後が参加、また芝浦アイランド自治会の2か月1回の清掃には200人をこえる人が参加している。地域の美化や安全なまちだれでも参加できる活動を工夫している例などを参考にする。	新しく転入してきた住民に目に見える具体的な行政サービスを提供する事例:(家賃補助制度やICTの活用教育・IT投票制度等の確立)※人材育成も重要(区議会議員等の擁立)	住むまちに興味や関心が持てるよう、生活のあらゆる面で区政との関わりを感じられることが大事。そのため、区民が参加しやすい区政をめざし、税金が区政に生かされていることを分かりやすく伝える工夫をすること。		

### 政策分野注力度(予算を計100ポイントとした場合の各分野への配分)

立候補予定者	社会保障	経済産業政策	社会資本整備	教育・子育て	農林漁業	税制・金融政策	労働	環境・エネルギー	行政・政治改革	安全・防災・震災復興
いいだ佳宏氏	11	11	10	12	2	18	10	5	10	11
大滝実氏	30	5	5	20	1	4	10	10	5	10
菊地正彦氏	15	5	5	15		15	5	10	10	20
たけい雅昭氏	10	10	10	20	0	0	10	10	10	20